



亀頭 壽太郎 議員

本町農業の10年後に目指す理念は

坪根町長 担い手農業者を育成する

問 上毛町の農地中間管理機構が10年後に目指す姿(理念)は何か。坪根町長 本町農業の10年後に目指す姿は、国の政策を有効に活用するとともに、本町農業に真に必要な施策を実行することである。農地として維持され、将来にわたって、農地のもつ多面的機能が十分に発揮されることを確保する。認定農業者・集落営農組織などの担い手農業者の育成を図る。園芸農家、小規模農家においても持続可能な上毛町に合った農業を目指す。以上が本町農業の10年後に目指すべき理念と考える。

生活保護基準と就学支援は

問 就学支援はどうか。百留教育長 国の生活保護基準の見直しで、就学支援について、本町の認定基準は変更していない。今まで通り実施して給付することになる。

指定管理は

問 大平案の前指定管理者に対する税の法的手続きは行っているか。福本税務課長 税の法的手続き

は、昨年4月に法律に基づき財産調査などを実施した。これについて一部成果も上がっている。そのほか、滞納処分調査に必要な事務手続きを現在も進めている。

高齢者対策は

問 65歳以上の人口比率は何か。末松長寿福祉課長 65歳以上の人口比率は5月末現在で32.3%になっている。

問 各地区の老人会の会員増強のため社会教育の一環として取り組まないか。百留教育長 平成26年度生涯学習講座の趣味趣向講座で、町の歴史教育など多くの講座を町民の皆様方に提示して参加を促している。それぞれの講座に多くの町民が参加している。参加を通して、高齢者の方々が連帯意識や協力感などを培っていただき皆さんと一緒に活動しようという意欲づけにもなるものと期待している。

問 高齢者に対する福祉面での町の取り組みはどうか。末松長寿福祉課長 高齢者福祉の観点から主なものとして、老人ク



6月21日に開催した野草の研修会の様子

ラブへの補助金、敬老金の支給、配食サービス、緊急通報装置の貸与、一人暮らし高齢者などの見守り、生きがいデイサービスなどがある。

上毛町ブランド 創造協議会は

問 雇用創出目標58人は、計画通り進んでいるのか。坪根企画情報課長 実績は24年度が計画数11人に対して15人、25年度が計画数22人に対して23人であり、計画通り進んでいると承知している。



野草の乾燥技術と加工品づくり



とうげの里山で集めた野草

問 事務局員の交代はないか。坪根企画情報課長 昨年12月末日をもって雇用創出実践メニューが中止となり、実践指導員2名を解雇し、現在2名の事業推進委員で対応している。



宮本 理一郎 議員

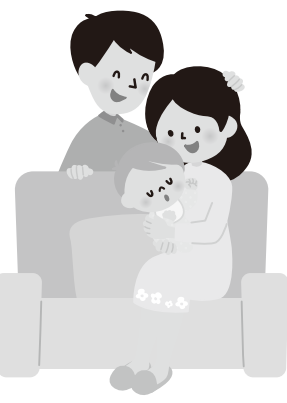
全国896自治体消滅の危惧は

坪根町長 子育て支援・少子化対策に全力を

問 全国1800の市町村自治体の半分近くにあたる896の自治体が、今いる住民の高齢化スピードと出産可能な女性の人口比率バランスが悪化し、30年間で消滅する可能性がある。この発表についてどのように考えるか。坪根町長 大変ショッキングな報告と思う。国と地方が一緒になって取り組んでいく必要があり、子育て・少子化対策に力を注いでいきたいと思う。

問 最大原因の少子高齢化、若年労働者の流出が限界集落の拡大や地域活性化を大きくさまたげ、自治体消滅の道へ誘導しているわけだが、この有効な打開策を本町はもっているか。坪根町長 少子化対策に特化して考えるべきである。雇用のないところ

に定住はないわけで、所得を増やすことに重点をおき、企業誘致、分譲地整備、PAの活用など、上毛町に住みたくなるような施策、子育てしやすい環境など責任をもった取り組みを考えている。



老人介護の実情は

問 2035年、今から20年後には、65歳以上の高齢者世帯が、全国で40%を越え、その内独居老人は30%以上になると推計されるが本町の現状は。末松長寿福祉課長 独居老人世帯は256世帯。二人世帯は223世帯で、福祉委員、民生委員などにより、全世帯の見守りを行っている。

問 老夫婦暮らし、老人介護状態の世帯が大変多く、健康な夫婦であれば問題はないが、片方が認知症、あるいは両方とも認知症というケースが社会的問題になっている。本町はこのデータを把握しているのか。また、セーフティネットワークは整備されているのか。末松長寿福祉課長 すべて把握している。独居世帯、老夫婦世帯については、福祉委員、民生委員などが地域ごとに見守りを実施している。事業者とも協定を結び、異変があれば町に報告してもらうことになっている。また、各新聞社にも協力をお願いしている。

問 認知症の方が外に出て徘徊し、行方不明になったり保護されたりする事件が、全国で多発しているが、本町はどのように対処する考えか。



特別養護老人ホームほほえみ館

問 インター周辺の整備事業は。上毛スマートICの現状と工事の進捗状況は。古原建設課長 道路施設本体については舗装工事と標識工事が、来年3月完成予定で順調に事業の進捗が図られている。

問 インター周辺の整備事業は。上毛スマートICの現状と工事の進捗状況は。古原建設課長 道路施設本体については舗装工事と標識工事が、来年3月完成予定で順調に事業の進捗が図られている。

問 周辺の開発整備計画に対する考え方、手法はどのように考えているか。坪根町長 IC周辺は地域の宝である。その自然環境を十分磨き生かして、徐々に整備した結果、地域全体を素晴らしい姿に仕上げていく考えである。

問 まずICの開設が成功し、次に活性化の鍵を握るPA事業に着手すべきである。ICとの相乗効果を発揮するためには、PAは広いほど良いわけで、事業の成否は集客力であり客数と考えるか。坪根町長 集客イコール売り上げ効果と考えるので、PAの面積は重要な鍵だと思つ。

問 いわゆるプロのデザイナーに頼らず、行政の現有頭脳を集積して、先人が残してくれた地域の自然環境を活かし自分たちの町づくりは自分たちでやるという考えはあるか。古原建設課長 上毛PA、IC、大池公園ふれあいの里周辺などは、町長を中心に職員あげて整備計画を検討中で、費用対効果、将来の見通しなどを考えて、「やる」という気概をもって取り組んでいる。

「こまごま」が聞きたい！一般質問

「一般質問」とは 町の行政全般にわたって、執行機関(町政)に対し、疑問点をただし、所信を求めることです。また本文は、質問答弁の内容を質問者により紙面の範囲内でまとめて掲載しており、全文詳細はHPにて会議録として掲載されており、また本文を参照してください。今回の一般質問は6月13日に行われた内容です。